

## ◎地区懇談会開催結果報告

1. 期日：令和6年12月14日(土) 15:00～17:00 (時間通りに進行、終了)
2. 場所：近隣センターA 会議室
3. 目的：当地域の社会福祉に関する問題・課題や方向性について意見交換し、地区社協来期計画や「第5期柏市地域健康福祉活動計画の地区別計画の策定」に活かす
4. 参加者：28名  
ふる協執行部(6人) 町・自治会長(11人) 民児協会長(1人)  
地域づくりコーディネーター(2人) 地域包括センター(1人)  
柏市社協(2人) 地区社協部(リーダー以上)(5人)  
(兼務者の場合、ふる協執行部員は町・自治会長か地区社協部員にカウントしています)

### 5. プログラム 進行：金丸氏

①挨拶 青柳会長 伊藤地区社協部長 市社協間根山さん

②民児協 関口会長からの民生委員児童委員欠員補充についての説明と依頼

「当地区では27名の民生委員児童委員が必要だが、現状の欠員3名に加えて次期までに7名の退任希望が出ている。計10の欠員予定である。交代時期まで少し猶予はあるが、今回この場を借りてあらかじめ町・自治会長の皆様に欠員の現状と補充のお願いをします」(欠員地区の説明もあった)

③資料説明(地区社協部担当より)

・柏市次期健康福祉計画に関するアンケート結果

各地区の地区社協部員が考える地区の社会福祉状況の現状と問題など

・第5期柏市地域健康福祉計画における地区別(増尾)計画案

④グループ討議・発表 4グループにて討議

テーマ：「地域の社会福祉に関する問題・課題をあげ、その対応策や方向性を考える」

・4グループにて討議 (市社協・地区社協部員がファシリテーター)

・進め方：自己紹介→各自で問題・課題のシール記入→関係性・類似性を考えて模造紙への貼付→グループ内意見交換(現状認識と対応策、方向性の検討)→まとめ→発表

・結果：現状の問題点や課題は以下の4つに大別され、熱心で活発な意見交換が行われました。

ただ、限られた時間内でしたので、対応策の方向性や糸口・ヒントまでの討議・発表になりました。

以下は4グループ全体での意見や提案を列挙したものです。

(・問題点や課題 ▶対応策や方向性)

#### <1>高齢化の進展

・超高齢化と1人暮らしの増加 ・1人暮らしが確実に増えている ・高齢世帯の増加

・1人暮らしの方(高齢者)が多く、助けたり相談したりが難しい

・高齢化と孤立化の深刻化 ・孤立感を感じている人も多い

・高齢者が病院や施設に入っているケースが目立つ

・認知症の増加、その疑いのある人の増加 ・虐待ケースもある ・家族構成により事情が異なる

▶○高齢者の見守り活動の強化 ○近隣の人による支え合い活動 ○認知症者への地域での対応

○高齢者と若者のつながり強化による日常的な声掛けができるしくみづくり

○使いやすい後見人制度の活用

## < 2 > 地域のつながりの希薄化

- ・地域の一体感が不足 ・地域、近所の支え合いが少ない
- ・以前からの住民と新たな住民との隔たり ・連帯意識の欠如 ・交流できる機会が少ない
- ・人の集まる場所が少ない ・以前は誰かの家で茶飲み話などできたが、今はなくなっている
- ・子どもの居場所が少ない ・世代交代が円滑に進んでいない ・子どもが地域から出て行ってしまう
- ・地域格差が大きい(一戸建てが多い所とマンション・アパートが多い所など)
- ・お店が少ない地域や店舗が減少している地域がある

- ▶ ○祭りなどのイベントをもっと盛んにする ○新柏地区対象イベントの開催
- 子どもを取り巻く環境づくりの推進 ○居場所づくりの拡大
- 多様性の時代、何か共通のものを見つけ継続させるしくみ作り

## < 3 > 担い手不足・後継者問題

- ・65歳以上でも働く人が多い・共稼ぎ世帯が多く、PTAのなり手不足、親子会にも入らない
- ・福祉に携わる担い手不足を痛感する
- ・担い手が高齢化し、若手が少ない ・特定の活動者(いつも同じ人がやっている)
- ・ボランティアや善意の活動の限界 ・地域活動など負担感がある
- ・民生委員が確保しにくい ・民生委員への負担増加 ・自助、共助、公助の役割認識が不十分

- ▶ ○次につなぐとき役割や実施内容の明確化
- できるだけ仕事を簡単にして負担軽減を図る
- 大事なものは「キーパーソン」の確保と養成 ○新たな担い手集めの方策の検討
- 住民主体は難しいので、公的組織に任すべき
- 「つなぐ、続く、人を育てる、未来をつくる」こういうサイクルが大切

## < 4 > ふる協や社協などの認知度が低い

- ・町会、自治会の役員が1年交代のため、継続性がない ・短期交代のため、毎回一から始まる
- ・役員が2年交代で役割がわかりにくく、混乱が生じやすい
- ・楽しいこともあるが、次代につながらない
- ・ふる協や社協の存在、仕組み、財源などが知られていない ・行事、イベントが知られていない
- ・地域の組織や社会活動への認知度が低い ・市、ふる協、社協のPR不足
- ・自治会活動としてのルールが守られず、独裁的リーダーシップになってしまう
- ・回覧板や掲示板はなかなか読まれないし、ホームページやSNSも興味ないと無視されがち

- ▶ ○紙媒体とネット(ホームページやSNS・ラインワークスなど)の複合的な活用
- 効果的コミュニケーションシステム開発
- 町・自治会役員への研修会の実施(役割理解など) ・楽しいことを含めての継続性の検討
- 学校との協力による子どもを通しての伝達のしくみづくり(子ども→親)

⑤まとめ：伊藤部長から活発な意見交換、様々な提案に対するお礼で締めくくり、終了しました。

以上

<地区懇談会>期日：2024.12/14 15～17時 於：近隣センター グループ討議まとめ  
 テーマ：「地域の社会福祉に関する問題・課題をあげ、その対応策や方向性を考える」



<4グループの総合まとめチャート>

